

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成28年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
28-4	ワンウェイ型カーシェアリングシステムの導入可能性と道路空間の新たな利活用方策についての研究開発	熊本大学 教授 溝上 章志	B
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>我が国へのワンウェイ型カーシェアリングサービスの導入可能性とその効果、ステーションの最適配置、路上配置とした場合の道路空間の新たな利活用方策などを明らかにすることを目的として、欧米におけるカーシェアリングシステムの実態と利用意識を分析し、独自開発したマクロ運用シミュレーションモデル、およびメソ交通流シミュレーションモデル K-MATSim を用いて、カーシェアリングの需要予測、インパクト評価を実施する研究開発。</p> <p><事後評価結果></p> <p>大規模実証実験の代替としてメソ交通流シミュレーションモデルを利用する工夫をし、また2種類のシミュレーションモデルを構築し分析に用いている点で評価できる。しかし、シミュレーションに特化し、実データの取得やそれとの整合性チェックがなされていないこと、研究成果の道路政策実務への貢献には残された道のりが長いとも考えられることなどから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. パリの Autolib の導入と挫折についての分析は詳細で興味深いですが、その過程を本研究で開発したシミュレータで分析し、カーシェアリングシステムが破綻しない条件等を導くことができれば有用性が高まるのではないかと。2. シミュレーションによる分析に際して、実データの取得やそれを用いた分析等がなされると良かった。今後はそのような取組みがなされることを期待する。3. 研究成果の普及等のため、セミナーや学会での発表等を通じた情報発信に期待する。4. 得られた研究成果を実務の場面でどう利用するのが良いのか、利用できるのかがよくわからない。本研究成果を実務で利用する手筈を用意できると良かった。5. 本研究課題内の「道路空間の新たな利活用方策」については、路上ステーションが交通流に与える影響を評価するにとどまっている。6. 本研究課題内での、「自動運転車両保有者によるシェアリングサービス」に関する研究項目の位置づけが不明。研究結果もあまり報告されておらず、本研究項目に関する評価が難しい。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第37回新道路技術会議において審議したものである。